

五 3 根拠と記述の整合性

根拠に基づいた考えの記述

通過率 47.5%

通過率 53.9%

調べたこと 4

資料

資料

「古典の日」 1

イベントのお知らせ

図書委員会

そこで 5

B

を行います。

期日：11月1日(金)

場所：図書室

ぜひ来てください!

古典の日 2

11月1日

古典に親しむ、古典を根づかせる

↓

目指すもの

A

古典 3

日本の文化において重要な位置を占め、優れた価値のあるもの

↓

青空中学校でも古典に親しもう!

【提示資料】

3 【提示資料】の B には、「古典の日」に関するイベント名が入ります。

このイベントの目的から考えられるイベント名と、そのイベントをする理由を書きなさい。ただし条件1～3に従って書くこと。

条件1 【ノート】の中にある資料1、資料2、資料3のうち、二つ以上を根拠にし、選んだ資料の記号に○を付けること。

条件2 イベント名には、作品名とイベントの内容を、【ノート】の中からそれぞれ一つずつ抜き出して書くこと。

条件3 理由には、その作品を取り上げる理由とそのイベントを行う理由を、【ノート】の中にある「古典の日」に関するイベントの目的と結び付けて書くこと。

(正答の条件)

(根拠と記述の整合性)

- ① 根拠にする資料に2つ以上○を付けている。
- ② 根拠にする資料、イベント名、理由の整合性がある。

(根拠に基づいた考えの記述)

- ① 青空中学校のアンケート結果を踏まえて作品名を選んだ理由を書いている。
- ② 青空中学校のアンケート結果を踏まえてイベントの内容を選んだ理由を書いている。
- ③ イベントの目的と結び付けた内容を書いている。

問題の趣旨

- (整合性) 図表と文章とを関連させながら読み、根拠に基づいて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。
- (記述) 図表と文章とを関連させながら読み、自分の考えを根拠を明らかにして書くことができるかどうかをみる。

学習指導要領における領域・内容

[中学校第1学年] 書くこと ウ

伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと。

[中学校第1学年] 読むこと オ

文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くすること。

主な解答例(誤答等)

- (1) 無解答【7.7% (整合性), 14.7% (記述)】 ← 平成 25 年度の中学校国語の問題の中で最も無解答率が高い設問です。
- (2) 自分の意見と根拠となる資料との整合性がないもの。【11.0% (整合性)】
- (3) 「資料のどこに着目したのか」を明らかにして書いていないもの。【11.5% (記述)】
- (4) 「読んだり書いたりする目的」を踏まえて書くことができていないもの。【15.7% (記述)】



これまでの全国学力・学習状況調査から明らかになったこと

○平成 19 年度「全国学力・学習状況調査」A問題 7 「グラフを基に考える」

出題の趣旨

正答率 広島県 72.7%, 全国 72.4%

グラフから情報を読み取り、文章の結論につながるように書くことができるかどうかをみる。

指定されたグラフから情報を読み取り、自分の考えを書くことはできています。

○平成 22 年度「全国学力・学習状況調査」B問題 1三 「情報を読む(新聞)」

出題の趣旨

正答率 広島県 51.9%, 全国 51.6%

記事文に書かれている内容をもとに、自分の考えを書くことができるかどうかをみる。

主な誤答

- ・記事を選んでいるが自分の感想を具体的に書いていない。
- ・自分の感想は具体的に書いているが、記事文のどの部分に興味をもったのかが明確に分かるように書いていない。

複数の資料から必要な情報を取り出して、根拠を明確に自分の考えを書くことに課題があります。

課題

自分の考えの根拠として複数の資料を比較しながら読み、その資料のどこに着目したのかを目的との関連を明らかにして書くこと。

指導のポイント



目的に応じて複数の資料を関連付けて読み、考えを表現させる必要のある活動を設定しましょう。

- 必然性のある言語活動を設定する。
 - ・ 複数の資料を関連付けて読み、自分の考えを表現する必然性のある単元を貫く言語活動を具体的に設定しましょう。(図表を用いてプレゼンテーションをする、統計や調査データを用いて報告文を書くなど)
- 根拠としてふさわしい資料を選ばせる。
 - ・ 本や資料に書かれている内容を正確に理解したうえで、どの部分を取り上げれば自分の意見の根拠となるかを考えさせましょう。
- 根拠、自分の考え、理由を区別した表現をさせる。
 - ・ 取り上げた事実や事柄を根拠に、自分の考えを書かせましょう。その際、資料のどの部分からその意見が言えるのか(必要に応じて引用させましょう)、なぜ、そう言えるのか(目的との関連を明らかにさせましょう)などを区別して表現させましょう。また、書いた後で根拠、考え、理由に整合性があるかどうか、生徒自身に見直させる指導も必要です。